

ミャンマー映像産業セミナー 特別試写会

共催
日本アセアンセンター 株式会社共同通信社



「日・ASEAN 友好協力 40 周年」記念事業

私たちが首輪を着けるのは
虎から身を守るためだと信じられている
だが、他のものからも守ってくれるのだろうか



Story

首に真鍮のリングを着けた姿で知られるミャンマーの少数民族カヤン。その稀有な姿ゆえに、昔から人々の好奇の目を集めてきた。

僻村に暮らす3人のカヤン女性たちは、変化のない日々に物足りなさを覚え、都会の街へと、工芸品を売りに行くことに。ひょんなことから、民族の誇りであるリングを着けたばかりの少女が旅に同行することに。ところが、やっとたどり着いた街の喧騒の中、突然少女は姿を消してしまう。

故郷からも部族からも遠く離れ、彼女たちの自分自身を見出す旅が、いま始まる…

監督・構想
AUNG KO LATT
脚本
HECTOR CAROSSO
共同プロデューサー
AUNG KO LATT
HECTOR CAROSSO



About the film

『Kayan Beauties』は2012年に製作されたミャンマーから世界へと発信される最初の長編フィクション映画の一つであり、AUNG KO LATT監督による初の長編でもある。

主演の4人の女優は、ほとんど演技経験がなく、半年間にわたって監督自ら演技指導を行った。数人の役者を除き、ほとんどの出演者やエキストラは全くの素人であった。

Hector Carosso以外のキャスト、撮影スタッフは全員ミャンマー人で、3ヶ月にわたり撮影を実施。撮影にはソニー製のHDW-F900R CineAlta HDを使用し、編集は監督自身がヤンゴンで行った。劇中音楽は監督とその兄弟およびカヤン族のタレントとのコラボレーションによる。ミャンマー初のドルビーデジタルサラウンドEXシステムを採用。

2013年のASEAN International Film Festival(Malaysia)で審査員特別賞を受賞。現在、ミャンマー全国でロードショー上映中。

Background

一般に、カヤン族はタイ北西部の土着民族だと思われている。これは、その姿をカメラに収めようとする観光客からの収入をあてにしてできた村に多くが住んでいるからだが、実際にはミャンマー東部の出身だ。

カヤンの女性が着ける真鍮のリングは、その重みで肩を押し下げて首を長く見せる。パダウン、首長族、キリン族などという名で、世界で（またはミャンマー国内でさえ）誤って認識されがちだが、カヤン族にとっては、これらはみな蔑称だと考えられている。

本作では、金のためにタイで暮らすカヤンの女性たちに触れているが、実際にこの問題は複雑な要素を含んでいる。なぜなら、タイで稼いだ金でカヤンの人々が潤っている事実もあるからだ。

また、人間性の抹殺ともいるべき人身売買にもスポットを当てている。この行為は世界中で撲滅しなければならない行為である。



Crew

AUNG KO LATT

ミャンマー人の映画監督。映画・TVプロデューサー、映像カメラマン、編集も担う。1970年代のヤンゴン大学学生時代に、ミャンマー初のロック・グループのボーカリストとしてカリスマ的存在に。現在も年代を超えて国内で圧倒的知名度を持つ。ミャンマーにおける映像関連技術のパイオニアであり、オーディオや動画技術の先駆者としても知られる。

1986年より9年間、日本に滞在。フジカ・シングルエイト・カメラマン・ソサエティーに参加し、映画撮影に興味を持つ。1995年に帰国し、AV制作会社を立ち上げ後、1999年に渡米。NYフィルム・アカデミーでも学ぶ。

これまでに、数百に上るTV CMや音楽ビデオ、ドキュメンタリーを自国で製作。ミャンマーの少数民族に造詣が深く、各地の少数民族の映像を記録している。ミャンマー映像産業協会事務局長を務める傍ら、映像技術専門学校の開校を目指し、後身の育成にも取り組んでいる。

HECTOR CAROSSO

フリーランスの映画脚本家であり、プロデューサー兼ディレクター。ニューヨーク在住の米国人。日本にも長期間にわたる滞在経験がある。脚本家/プロデューサー/ディレクターとしての作品多数。

Main Cast

Mu Pau	～ Hin Mai
Mu Lai	～ New Ni Win
Mu Dan	～ Khin Mar Win
Mu Yan	～ Rose Mary
Khu Da	～ Francis



From the Scenes



部族ごとの衣装が美しい祭りの様子。ミャンマーには135の部族があるといわれ、それぞれに独特な衣装や髪型がある。言語も異なる場合があり、本編でもコミュニケーションに苦労する様子が描かれている



街中での撮影風景。通りがかりの人々も撮影風景に興味津々だったという



悪役イメージは万国共通?



恋の要素もちょっぴり…



素朴で美しいミャンマーの農村や自然の風景が随所に織り込まれているのも見どころ



Myanmar Movies

ミャンマーの映像産業は1930年代には既に多くの映画監督を輩出し、“アジアのハリウッド”と評されるほど、隆盛を極めた時期もあった。1957年にはミャンマー版アカデミー賞も創設され、現在も継続している。しかし、約半世紀に及ぶ軍主導の体制下では、情報メディアや映画産業に対して極めて厳格な検閲体制が敷かれ、その発展は著しく阻害された。

2011年の新政府発足以後、民主化の動きは急速に進み、情報や映像の分野も例外ではない。いま、ミャンマーの映画人の多くが、過去の栄光を取り戻そうと行動を活発化させている。外国の映画祭への積極的な出品、新しい映像技術や機器の導入、脚本作成、俳優養成、制作運営など映像産業を支える全てのノウハウを培おうと海外との交流を深める活動を再開したのだ。

こうした動きを支援すべく、今回の講演および作品の上映が、日本におけるミャンマーのコンテンツ産業に光を当てる一助になれば幸いである。